

英語科学習指導案（2年生）

- 1 単 元 日本の食文化について理解し、それぞれの地域の魅力を発信する
(Lesson 4 Enjoy Sushi, *New Crown English Series 2*)

2 単元設定の理由

本単元では、すしを中心に日本の食文化について学習する。学習者は家庭科の授業で「地域の食材と食文化」という単元を学習しているので、そこで学習した知識を活用して学ぶことができる。日本食についてより深く理解し、それを外国人に英語で伝えられることは、これからのグローバル社会を生き抜く学習者にとって非常に大切なことである。また、対話文を読む中で、There is(are) ～.や動名詞の用法を学ぶ。There is(are) ～.の構文を学習することで、物事の存在の有無について新情報を伝えることができるようになる。さらに、動名詞を活用することで、これまで動詞として使っていたものを名詞として主語や補語、目的語として用いられるようになるため、表現の幅が広がる。以上のことから、外国人と文化を交流する際に必要な知識や技能を身につけるのに非常に適した単元であるといえる。

本学級の学習者は、2～3レッスン毎に行われるパフォーマンステスト（即興的にペアで話したり、実際にメールを送信したりする技能テスト）に向けて、様々な表現活動に取り組んできた。2年終了時の目標に、即興的なやり取りができるようになることを掲げているため、「聞くこと」・「話すこと」の技能統合型の活動に力を入れ、特にディクテーションやディクトグロス、レポートイング、質問作成活動、Q&Aに取り組んできた。アンケートの結果においては、「聞くこと」の苦手意識は大幅に改善されている。しかし、「話すこと」に抵抗を感じる学習者が多い。その理由として、①「(パフォーマンステストで) 原稿を見ずに話すのは難しい」、②「思っていることが英語にできない」、③「長く話ができない」ということが自由記述に多く見られたことから、学習者の多くは、即興的に話すことや会話の継続に難しさを感じていると判断できる。

指導の概要を述べる。まず単元の最初の授業で、ALTの悩み（日本食を食べることが大好きなMathieuが、北海道か沖縄に行くのであればどちらがいいか、またその際、夏に行く方がいいのか冬に行く方がいいのか）をビデオレターとして見せる。そして、その悩みに答える問題解決を目標に設定し、1時間毎にその目標に迫るように授業を組み立てる。単元の最後の授業で、パフォーマンステストを行うこともあらかじめ伝えておく。

上述の3つの課題への対応を述べる。①に対して、毎時間の導入で日本食の紹介を行い、帯活動でご当地グルメミニプレゼンテーションに取り組ませる。原稿を見ずに自分の考えを伝えることができたことと学習者に実感させるための工夫として、思考ツールを活用し、マッピング等の情報や考えを整理する活動を行う。これは思考を整理するだけでなく話す時のメモとしても活用できるため、課題①の解決につながると考える。また、課題②に対して、話し合う活動の最後に「言いたかったけど英語で言えなかったこと」を共有することで克服を図る。課題③については、1年次に学習したOBC (Opening/Body/Closing) とORO (Opinion/Reason/Opinion) の構成を意識させる。さらに、教師によるフィードバックを効果的に行い、英語表現の正確性や伝え方、相手意識についても指導を行い、今後の即興的なやり取り（ディベートやディスカッション等）につなげていきたい。

3 学校研究<「問い」の工夫>について

<「問い」の工夫Ⅰ（めあて・課題を学習者に届けるための手立て・プロセス）>

ビデオレターを見せ、ALT の悩みに答えようという問題提起を行う。単元の最初の授業でそれに挑戦させ、うまくできない経験をさせることで、単元の学習の必要性を感じさせる。さらに、その活動をパフォーマンステストとして評価することをあらかじめ伝えておくことで、学習者はそれに必要な知識・技能の獲得をめざして主体的に学習に取り組むことができると考える。

<「問い」の工夫Ⅱ（深い学びに迫るための手立て・プロセス）>

イメージマップやクラゲチャート、ステップチャート等の思考ツールを活用する。多くの情報やアイデアを整理し論理的に考えることで、まとまりのある内容を話すことができるようになると思う。

4 単元の目標

- (1) 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。 【外国語表現の能力】
- (2) 聞き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- (3) ①There is(are) ～. と動名詞の形、意味、働き（機能）を理解している。
②日本の食文化に対する理解を深めている。

【言語や文化についての知識・理解】

5 単元の評価規準

ア	イ	ウ	エ
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
聞き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。	/	①There is(are) ～. と動名詞の形、意味、働き（機能）に関する知識を身につけている。 ②日本の食文化に対する理解を深めている。

6 単元の指導計画と評価計画（総時間 11 時間）

時数	各時の目標と学習活動		評価規準
1 (本時)	目標	Mathieuの悩みを理解し、いくつかの地域（都道府県）の日本食を紹介する	
	学習内容	日本の食文化について表現させる活動を通して、本単元の学習内容とゴールを全員に理解させる。	
2	目標	There is(are) ～.について理解し、食文化の観点から大分県の良さをPRできるようになる	エ
	学習内容	There is(are) ～.について学習し、大分県についての英文を練習する	
3	目標	エマと丘先生の対話を理解し、エマが「自分の町のすし屋の所在等」を叔母に伝えるメールを作成する	エ
	学習内容	本文を理解し、There is(are) ～.の英文を中心に練習する(本文Get1)	
4	目標	動名詞について理解し、Mathieuが日本のそれぞれの地域で楽しめそうなことについて、ペアで1分間やり取りをすることができる	エ
	学習内容	動名詞について学習し、練習する	
5	目標	エマと丘先生の対話を理解し、エマが「丘先生にすすめられて行ったすし屋の感想等」を叔母に伝えるメールを作成する	エ
	学習内容	本文を理解し、動名詞の英文を中心に練習する(本文Get2)	
6	目標	様々な種類のすしについて理解する	エ
	学習内容	すしに関するウェブサイトの内容を読解する(USE Read)	
7	目標	おすすめレシピを紹介する	ア
	学習内容	飾り巻きずしのレシピを理解し、それを参考に自分のおすすめレシピを紹介する(USE Read)	
8	目標	様々な種類の日本食とそのレシピ等について知り、日本の食文化の魅力を理解する	
	学習内容	日本食についてインターネットや文献で調べ、まとめる	
9	目標	それぞれの地域の日本食の違いを整理し、Mathieuの悩みに答える準備をする	ア
	学習内容	北海道か沖縄か（それとも他の地域か）、また夏に行くべきか冬に行くべきかについて、自分の考えを整理し、伝える練習をする	
10	目標	Mathieuに議論を聞いてもらい、いつどの地域に行き、何をするつもりかを決めてもらう	ア
	学習内容	北海道か沖縄か（それとも他の地域か）、また夏に行くべきか冬に行くべきかについて、クラス全体で議論を行う	
11	目標	Mathieuの悩みについてペアで話す	イ
	学習内容	北海道か沖縄か（それとも他の地域か）、また夏に行くべきか冬に行くべきかについて、お互いに自分の意見を述べる（パフォーマンステスト）	

7 本時案

(1) 題目 Mathieu の悩みを理解し、いくつかの地域（都道府県）の日本食を紹介しよう

(2) ねらい ALT の悩みを理解しそれに答えようとする活動を通して、日本の食文化について学ぶ必要性和既習表現を用いて表現できることとできないことを明確にすることができる。

(3) 展開

学習活動	教師の指導・支援	時間	備考・評価
1 動画の要点を理解する。	○動画を見せて、Mathieu の悩みを理解させる。 ・一度流した後、ペアで意見を共有させる。 ・再度流した後、内容を確認する。	10	・iPad ・ワークシート <「問い」の工夫Ⅰ>
2 学習の見通しを持たせる。	○単元のゴールと本時の流れを説明する。 ・単元のゴールをパフォーマンステストで評価することを伝える。	5	<「問い」の工夫Ⅰ>
3 発表の準備をする。 (1) ブレインストーミングをする。 (2) 共有する。 (3) 整理する。 (4) 原稿を作成する。	めあて：日本食について知っていることを共有し、地域別に英語で紹介しよう！ ○日本食について知っていることをワークシートに記入させる。 ・付箋を用いて白地図で共有する。 ○知っていることを言わせ、板書する。 ○選んだ地域についてマッピングをさせる。 ・イメージマップを使用させる。 ○マッピングしたものを参考に、英語で原稿を作らせる。 ・OBC と ORO の構成を意識させる。 ・辞書を使用させる。	20	・思考ツール <「問い」の工夫Ⅱ>
4 発表する。	○ペアでお互いに言わせる。 ・最初は原稿を見ながら言わせ、二度目はイメージマップを見ながら言わせる。 ・パフォーマンステストにおいては、メモのみ使用可であることを伝える。 ・「言いたかったけど英語で言えなかったこと」を共有し、There is(are) ～. や動名詞を学習すれば表現の幅が広がることを伝える。	10	<「問い」の工夫Ⅱ>
5 振り返りを行う (1) 本時の活動を振り返る。 (2) 教師のフィードバックを聞く。	○自己評価を書かせる。 ○日本食に関する知識と既習事項を活用して表現しようとした学習者の努力を認め、単元のゴールにたどり着くために必要な知識・技能について話をする。 ・自国の文化について深く理解し、それを外国人に英語で伝えられることは、グローバル社会を生きる学習者（・使用者）にとって非常に大切であることも伝える。	5	・ワークシート

8 評価について

単元の評価規準	観点	十分満足 (A)	おおむね満足 (B)	努力を要する生徒への手立て	評価方法
聞き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	関心・意欲・態度	ワークシートの自己評価欄「話を聴けた」「工夫して話せた」がそれぞれ8割以上 A 評価で、観察からも納得ができる。	ワークシートの自己評価欄「話を聴けた」「工夫して話せた」がそれぞれ8割以上 B 評価以上で、観察からも納得ができる。	話を聴く時はなるべく相手の目を見るようにすること、話す時は声の大きさや表情を意識するように助言する。	ワークシート・観察
日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。	表現 (発表)	自分の考えを OBC または ORO の構成で4文以上、話す (書く) ことができる。	自分の考えを OBC または ORO の構成で3文以上、話す (書く) ことができる。	教師が作ったモデル文を渡し、それを参考にしながら書かせる。	パフォーマンステスト (定期テスト)
	表現 (やり取り)	相手が発表した内容に関連させて質問することも、相手の質問に答えることもできる。	相手が発表した内容に関連させて質問することはできないが、相手の質問に答えることはできる。	あらかじめ質問する内容を決めておくように助言する。	パフォーマンステスト
① There is(are) ～. と動名詞の形、意味、働き (機能) に関する知識を身につけている。 ②日本の食文化に対する理解を深めている。	知識・理解	①文の構造を理解して、適切に表現することができる。 ②日本の食文化とそれぞれの地域の魅力を正しく発信している。	①文の構造を理解しているが、スペリングのミス等がある。 ②日本の食文化とそれぞれの地域の魅力を発信しているが、少し誤った情報が含まれている。	具体的に家庭学習のアドバイスをし、小テストを数回実施する。また、添削を行う。	定期テスト・小テスト